

国語 問題

㊦ 著作権者の許諾を得ていないため、掲載いたしません。

㊧ つぎの各問に答えなさい。

問一 『風姿花伝』を著した能楽の大成者は誰か。漢字で記しなさい。

問二 『奥の細道』『更科紀行』を著した俳人は誰か。漢字で記しなさい。

問三 『舞姫』『高瀬舟』『阿部一族』『山椒大夫』などを著したのは誰か。漢字で記しなさい。

問四 『伊豆の踊子』『雪国』『浅草紅団』『眠れる美女』などを著したのは誰か。漢字で記しなさい。

国語 問題

三 つぎの文章は『大鏡』の粟田殿(藤原道兼(九六一〜九九五))について述べられた一節である。これを読んで後の問に答えなさい。

このおとど、これ*大入道殿の御三郎、粟田殿とこそは聞えさすめりしか。長徳元年乙未五月二日、関白の宣旨からうづらせたまひて、おなじ月の八日、うせさせたまひにき。大臣の位にて五年、関白と申して七日ぞ【おはします】しかし。この殿はらの御族に、^①やがて世をしろしめさぬたぐひ多くおはすれど、¹またあらじかし、夢のやうにてやみたまへ^xる^は。*出雲の守相如の主の御家に、^②あからさまに渡りたまへりし折、宣旨は下りしかば、主のよろこびたうびたるさま、^{推し}はかりたまへ。狭うて、*この作法えある^yまじとて、*たたせたまふ日ぞ、*御よろこびもⁱⁱ申させたまふ。殿の*御前は、^せえもいはぬものの限りすぐられたるに、北の方の*二条に帰りたまふ御供の人は、よきもあしきも教しらぬまで、*布衣などにてあるもまじりて、殿の出したてたてまつりて、渡りたまひしほどの、殿内の榮え、人の気色は、ただ思しやれ。あまりにもと、見る人もありけり。御心地は少し例ならず思さ^zれけれど、「おのづからのごとにこそは。いまいましく、けふの御よろこび申し【とどむ】じ」と思して、^③念じて内に参らせたまへるに、いと苦しうなせたまひにければ、*殿上よりはえ出でさせ【たまふ】で、*御湯殿の馬道の戸口に御前を召して、かかりて、*北の陣より出でさせたまふに、こはいかにと、人々見たてまつる。殿には、常よりも*とり経営して待ちたてまつりたまふに、人にかかりて、御冠もしどけなくなり、御紐おしのけて、いとみじう苦しげにておりさせたまへるを、^{iv}見たてまつりたまへる御心地、出でたまうつる折にたとへなし。されど、ただ「さりとも」と、³ささめきにこそささめけ、胸ふたがりながら、心地よ顔をつくりあへり。世にはいとおびたたたくも聞こえず。

【注】

- *大入道殿 関白太政大臣藤原兼家。
- *出雲の守相如 道兼の家臣。道兼は相如の家に方違えをしていた。
- *この作法 関白就任に際しての自宅での儀式。
- *たたせたまふ日 自宅に戻る日。
- *御よろこび 参内して任官の御礼を申し上げること。
- *御前 御前駆けのこと。
- *二条 道兼の本邸。
- *布衣 ほしい。布の狩衣。
- *殿上 内裏・清涼殿の殿上の間。
- *御湯殿の馬道 清涼殿の北側にある御湯殿(おゆどの)の間から後涼殿に通ずる廊下。
- *北の陣 内裏の外郭の北の朔平門。
- *とり経営して 奔走して用意すること。

国語 問題

問一 【一】部の動詞A「おはします」・B「とどむ」・C「たまふ」を適切なかたちに活用させなさい。

問二 四角囲い部の助動詞X「る」・Y「まじ」・Z「れ」の文法的意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を繰り返し選んでもかまわない)

ア 受身 イ 可能 ウ 過去 エ 完了 オ 打消 カ 断定 キ 自発 ク 尊敬

問三 波線部ⅰ～ⅳの動作表現は、誰への敬意を含むものか。つぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。なお、二人以上への敬意を含む場合は、すべての記号を記すこと。(同じ記号を繰り返し選んでもかまわない)

ア 栗田殿 イ 出雲守相如 ウ 殿の御前 エ 北の方 オ 帝 カ 話の聞き手

問四 二重傍線部①「やがて」・②「あからさまに」・③「念じて」の意味を答えなさい。

問五 傍線部1「またあらじかし」とあるが、誰のどのような境遇が「またあらじかし」なのか。具体的に説明しなさい。

問六 傍線部2「おのづからのごとにこそは」を具体的に現代語訳しなさい。

問七 傍線部3「さりとも」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア こんなにだらしない姿でも、官職を解かれることはないだろう。

イ こんなに大勢で尽くしたとしても、たいして出世しないだろう。

ウ こんなに盛大なお祝いをして、破産することはないだろう。

エ こんなに酔っ払っていたとしても、官中に出仕することは忘れないだろう。

オ こんなに体調が悪そうでも、最悪の事態になることはないだろう。

国語 問題

四 つぎの文章は中国戦国時代に編まれた『呂氏春秋』の一節で、戦国時代の大国であつた秦と魏との争いについて述べられている。これを読んで後の問に答えなさい。

秦王立^テ帝^{トナリ}。宜陽^ニ、令^ム許綰^{ハハ}誕^{ハハ}魏王^ヲ。魏王^ハ入^ル秦^ニ。魏敬謂^{ヒテ}王^ニ曰^{ハク}、「以^テ河内^ヲ孰^カ与^ニ梁^ニ重^{シト}。」又曰^{ハク}、「梁^ハ孰^カ与^ニ身^ニ重^{シト}。」王曰^{ハク}、「身^ハ重^{シト}。」又曰^{ハク}、「若使秦求河内、則王^ハ与^ニ之^ニ乎。」王曰^{ハク}、「弗^レ与^ス也。」魏敬曰^{ハク}、「河内^ハ三論^ノ之下^ニ也。身^ハ三論^ノ之上^ニ也。秦^ハ索^ク其^ノ下^ニ、而^チ王^ハ弗^レ聽^ス。索^ク其^ノ上^ニ、而^チ王^ハ聽^ス之^ヲ。臣^ハ窃^ク不^レ取^ル也。」王曰^{ハク}、「甚^ク然^ル。」乃^チ輟^リ行^ク。

*帝 天下の覇者の称号。王よりも上位。

*宜陽 ぎよう。地名。

*許綰 きよわん。人名。

*魏敬 人名。魏王の臣。

*河内 かだい。魏の地名。秦に隣接し、魏の首都から辺境に位置する。

*梁 魏の首都。

問一 空欄Aには同じ語が入る。最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 未 イ 応 ウ 将 エ 須 オ 猶

問二 傍線部①「若使秦求河内」をすべてひらがなで書き下し文にしなさい。

問三 傍線部②「弗与也」を具体的に現代語訳しなさい。

問四 傍線部③「甚然」は、魏王が何に納得したのか。最も適切なものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア 魏敬が、敵国の攻撃から身を守るためには軍事書に従うべきだと、魏王に進言したこと。

イ 魏敬が、国土を守るためにはより良い対応策があると、魏王に助言したこと。

ウ 魏敬が、国を治める王としてはあまりにも利己的であると、魏王を非難したこと。

エ 魏敬が、最も大切なものを守るための判断が適切ではないと、魏王を論じたこと。

オ 魏敬が、物事の取捨選択は保身的な立場で行なうべきではないと、魏王をなだめたこと。